

求める方法と写真判読樹冠直径から一足跳びに平均直径を推定し、残りの \bar{d}_b , B , $B \cdot \bar{H}$ は上述と同様にして推定する方法の2つの方法についてその効率を比較検討したものであった。現在、進めている研究は大分県の湯布院にある九州林産株式会社社の社有林の平家山山林の毎木調査データを用いて、空中写真から1小班的直径階別本数を推定し、施業計画や利用材積の推定に役立てようとするものである。その方針としては上述の2つの研究結果をもとにして、空中写真とワイブル分布を用いて、効率のよい推定方法を検討しようと考えている。

9 九州山地中央部山岳林へ迷い込んだヒグマ

九大農 今田盛生

本会の会員である九大の長正道先生から、十数年ぶりに北海道から九州へ転じたことに関連してなら、どのような内容でもいいから本誌への原稿を、という書状が椎葉の山深い里へ舞込みました。私のはじめて津軽を北へ渡ったのは、学生として「実地見学」の途上でありました。その際の引率教官はお二人で、林業統計の権威木梨謙吉先生と、もうお一人が当のご本人長先生だったのです。その長先生から、津軽を逆に南へ渡った後のことを、というご要請もなにかのめぐり合わせと思い、あえてお断りをせずに駄文を書かせていただきます。

北海道では、九大北海道演習林というところにおりました。この北演は、わが国で最も広い行政区域面積をもつ足寄町にありまして、帯広から北東へ約65km離れたところでした。そこに満14年間おりました。そして、昭和52年の4月に、九大宮崎演習林というところに転じました。この宮演は、ご存知のひえつき節で有名な宮崎県は椎葉村にありまして、例の鶴富屋敷から南へ約35km離れたところでした。

前任地の北演は、十勝平野北東部の里山丘陵林でありましたが、ここ宮演は九州山地中央部の奥地山岳林であります。14年の間に、九州の山のことは、わずかばかりの脳みそしか入っていない私の頭からきれいさっぱり消えておりました。なにをまちがえたのか、エゾ地の里山から椎葉の深山へ、いきなり迷い込んだヒグマ同然であります。冬眠からさめて穴からはい出してみると、例年とはあたりんが全精気が全くちがいが、あまりの環境激変にしばしばう然としておりました。しかしながら、越冬に全精力をつかい果し、腹は減っておりますから、いつまでもすわりこんでいるわけにはいきません。早速、エサさがしをはじめました。

これまでは、せいぜい草丈50cm程度のエゾミヤコザサでしたからうろつくのは楽でしたし、けつまずいてもすりむく程度ですみました。しかし、ここは草丈2mをこす密生したスズタケをかきわけかきわけの前進でありまして、しかも足もとが少しでも狂うと、はるか下に流れる沢までころがり落ち

そうなところが少なくありません。極言すれば、極楽から地獄へ迷い込んだような感がいたします。

そこで、せめてものなぐさめに、“北の誉”という清酒から“極楽”という球磨焼酎に飲みかえしました。そのビンには、“極楽”という文字のすぐそばに、あまり目立たない大ききで、遠慮がちに、“適飲保健”と朱書してありますが、それを見忘れて飲んだ日の翌日は例の地獄であります。ところが、北演では沢までゆくのにはやしばらくかかりますが、ここ宮演にはいたるところに湧水があり、あの心地よいせせらぎの音をすぐそばに聞くことができます。このような環境は、特殊なオーバーヒートの日には、一転して極楽に変わります。

もちろん、前述のような飲物だけではなく、主食の面でも変更を余儀なくされます。北演では、主食がミズナラのドングリでありました。そしてまた、それは時節がくれば、多少の差はあっても、容易にみつけることができました。しかしながら、ここ宮演にはそれほど多くはありません。しかも、それを足もとを気づかいながらスタケをかきわけてさがし出さねばならないとなると、あまりうろつきまわらずに楽にエサにありつける方法はないものかと考えるのは当然のなりゆきであります。そこで、ほかの木の種でも消化できるようにこちらの胃袋をきたえなおすのも一考と、その訓練を徐々に始めてみました。ところが、主としてブナ・ミズメ・カエデ類なども結構いけることがわかってきました。そのエサさがしのさい中に、昔の主食のミズナラに出くわすとホッとしますし、主食の全面変更というきびしい事態にたち至らずにすんだ幸運を鼻をなめまわしている今日此頃です。

ここ宮演に転じてからは、従来の「ミズナラ構造用材生産林の森林組織に関する研究」を、「広葉樹化粧単板原木生産林の森林組織に関する研究」に発展的に解消しました。もちろん、北演における従来の試験地などは継続する体制をとっておりますし、まえにもふれた1972年度を初年度とする2121年度までの長期研究も、その後は順調に継続されており、1978年度をもって第7年度が終了します。残るはあと143年間であります。何回も化け直して出て行く時には、毎たび、白地の着物ですみますし、履物は一切不要ですから、その点では安心しておりますが……………。

10. 林業試験場九州支場育林部経営研究室の紹介

林業試験場九州支場 森 田 栄 一

研究室の紹介に先立って、まず当支場の環境を紹介したい。場所は熊本旧区街地の東より、国道57号線沿いの立田山の麓、細川ガラシャ夫人で有名な細川家墓地泰勝寺と隣接し、近くには熊本文学部（旧五高）、教養学部、工学部（旧工専）および済々黈高校、九州女学院、桜山中学校など学校関係の多い文教地区であり、立田山実験林（約30ha）は支場の研究用としてだけでなく、市民のレクリエーションの場として朝夕の散歩、ランニング、休日の行楽と賑やかであり、また、標高150mの頂上